

そこが知りたい アライグマ対策のブレイクスルー ～現状打破の一手を考える～

実施報告

文責：渡邊英之（株式会社野生動物保護管理事務所）

1. 運営体制と実施内容

■体制

渡邊英之（株式会社 野生動物保護管理事務所 / 学会青年部会員）

吉岡憲成（株式会社 KANSOテクノス / 学会正会員）

本橋篤（株式会社 野生動物保護管理事務所 / 学会青年部会員）

古賀達也（森林総合研究所 / 学会青年部会員）

■趣旨・内容

特定外来生物アライグマは全国的に分布が拡大しており、被害は増加傾向にある。また、対策が各地で講じられているものの、分布拡大抑制や低密度化に成功した事例は限られ、多くの地域で苦戦続きである。一方で、アライグマ対策の手法や研究などは蓄積されつつあり、現状は「指針は存在するものの、実行に移せていない」という状況である。今後、アライグマ対策を効果的に推進するためには、現在の停滞状況の構造や要因を明確にし、それを打破する一手を打つ必要がある。

そこで本企画では、まず「現状の共有」と「対策事例の共有」を通して現状を整理し、アライグマ防除が停滞する構造や要因、それを乗り越えるための課題を抽出する。そのうえで、パネルディスカッションを通じて現状打破の一手を議論する。

■スケジュール&内容

時間	話者	題名
14:00~14:05	事務局:渡邊	開会のあいさつ 企画説明
14:05~14:20	事務局:渡邊	現在のアライグマ対策の概要
14:20~14:40	事務局:吉岡	現状の課題の整理
14:40~14:50		休憩:質問募集
14:50~15:10	大阪:幸田氏	大阪府におけるアライグマ対策事例
15:10~15:30	千葉:浅田氏	千葉県の市町村におけるアライグマ対策事例
15:30~15:50	東京:鷲田氏	東京都におけるアライグマ対策事例
15:50~16:00		休憩・パネルディスカッション準備
16:00~17:00	全員	パネルディスカッション

2. 広報・当日までの対応・決算・そのほか

■企画広報

- ・ チラシの作製は企画者の本橋が実施した(資料①)
- ・ 2025年11月に下記のメーリングリスト等で広報した
 - Jeconetメーリングリスト
 - Wildlifeメーリングリスト
 - 「野生生物と社会学会」メーリングリスト
 - 鳥獣管理士メーリングリスト
 - 鳥獣管理士 関西の会メーリングリスト
 - アライグマ連絡会メーリングリスト
 - Youth Platform Slack

■当日までの対応

- ・ 「野生生物と社会」学会青年部会HPやメーリスにgoogleフォームのURLを記載しそこから申し込んでもらう形をとった.
- ・ 申込期限は設けなかった.
- ・ 当初zoomウェビナーの仕様を予定したが, 既存のアカウントを使えるgoogle meetsを使用した. 当日のmeet URLは12/6(前日)に参加者に送付した.
- ・ 事前に要旨を送付した(資料③・別紙). これはコメンテーターの梶さんの求めに応じたもので急遽作成した.

■決算

内容	費用(円)
会場費	27,313円
謝金費用(8000円 × 3人)	24,000円
手伝い交通費・宿泊費(交通費＋宿泊費)	63,358円

■その他

○オンデマンド配信

- 原則、記録した映像は今後の参考用とし、オンデマンド配信等を行わなかった。

○今後の予定

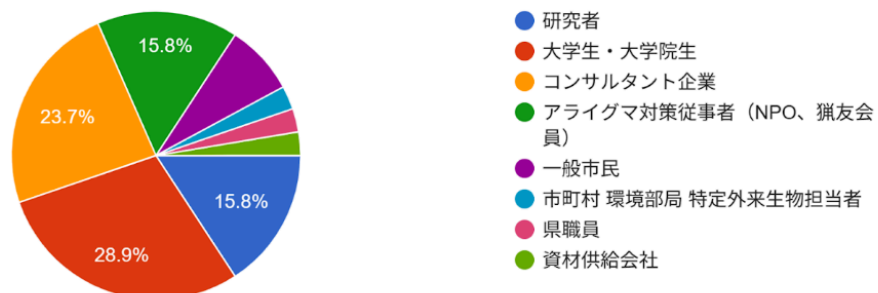
- Wildlife Forum誌にて企画報告を掲載する。

3.参加者

- 事前申し込み:約160名
- 当日参加:約110名前後(うち現地約15名)
- 申込者の属性(事後アンケート):
最も多いのは学生(大学生・大学院生)であった。ついでコンサルタント企業やアライグマ対策従事者などの民間関係者の参加が多かった。

1.あなたの属性についてお知らせください

38 件の回答

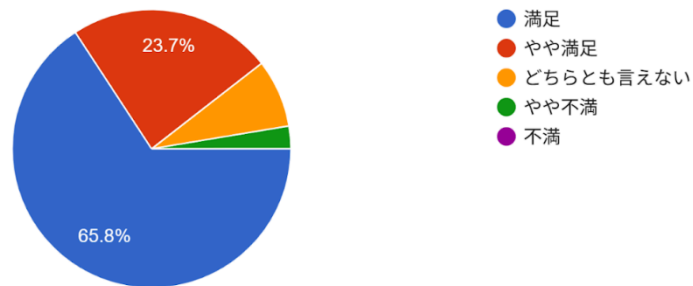


4. 事後アンケート

- 満足度:
約9割が満足・やや満足と答えていた

2.企画全体の満足度をお知らせください

38 件の回答



- 参加者が考える役に立った内容
本企画の発表内容に直接かかわるもののみを抜粋した。また、類似内容は統合した。
 - ・ モニタリング手法
 - ・ 各地の対策状況
 - ・ 空間スケールやフェーズごとの目標・対策の違い
 - ・ 法律や財政的な枠組み
- 参加者が考える改善すべき内容および運営状況
本企画の発表内容・運営に直接かかわる者のみ抜粋した。また、類似内容は統合した。
【内容】
 - ・ 縦割り行政の弊害は以前から言われていることなので、どうすれば解消できるかを議論してほしかった。
 - ・ 法律や交付金が絡むと少し難しく感じた。
 - ・ 発表者は、アライグマ以外の種や課題にも取り組んでいるはず。全体のエフォート配分を知りたい。組んでいるはずであり、全体のエフォート配分を知りたい。
 - ・ 課題は多いと思いますが、このシンポジウムでどの課題にフォーカスして議論を進めるか、もう少し絞っても良かったかと思いました。
 - ・ 行政担当者や研究者向けであり、それ以外の門外漢にとっては、活かす方法が無い。
 - ・ 都道府県レベルの取り組み事例が聞けたが、国レベル(環境省や農水省)の取り組み事例や課題が聞ければ良かった。
 - ・ もう少し各地の課題を抽出される事を期待していたし、そのほうが良かった。CPUEの定着度区分、雌雄の比率の考え方は興味深いですが、いずれも千葉県での事例で他地域にも応用できるのか疑問であった。

【運営】

- ・ 事例報告も含めて資料を先に共有してほしかった
- ・ 討論で、だれがどの発言をしているか分からなかった
- ・ 質疑応答の時間を確保して欲しかった。
- ・ 会議全体が写っているような映像があれば雰囲気もわかりやすかったと感じる。
- ・ URLなど参加方法に関する事前連絡が直前であった。
- ・ 参加方法がわからなかった。

7. 今回の成果と課題

【成果】

- ・ 都道府県や自治体ごとに個別に紹介されがちだったアライグマ対策を、構造的に比較することで、より有効な対策の方向性を考える材料を提示できた。
- ・ 多くの地域で課題となっているデータ収集について、実際にうまくいっている複数地域の事例を示すことができ、その可能性を明示できた。
- ・ これまで個別には存在していたが、比較されてこなかったために十分強調されていなかった先行事例を、公の場で紹介・共有できた。
- ・ 各地域の取組を横断的に示すことで、自治体間で学び合う視点を提供できた

【課題】

- ・ 前提知識となるCPUEが多くの地域で十分に整備されていない現状を、十分に明示できなかった。その結果、本来は非常に優れた事例の先進性が、前提を共有できていない参加者には伝わりきらなかった可能性がある。
- ・ 演者の決定が遅れたことで、全体スケジュールが後ろ倒しとなり、

- ◇ 広報
- ◇ 演者の内容確定
- ◇ 資料作成
- ◇ 事後アンケート作成
- ◇ 学生スタッフの準備

といった各フローが早期に動き出せなかった。

- ・ 参加者配慮のつもりで申込締切を明示しなかったが、結果として準備の遅延につながった→ 今後は明確な締切設定が必要。
- ・ 発表資料の事前共有や当日の参加URL配布が遅れてしまった。
- ・ Google Meetにおける入室承認設定・参加許可の運用が十分に整理できていなかった。
→ 少なくとも200名程度が参加可能な環境を事前に確保すべき。

資料①

一目でアライグマのシンポジウムがわかるように、真ん中にアライグマを位置づけた。

「野生生物と社会」学会 青年部会企画 アライグマシンポジウム

そこが知りたい

アライグマ対策のブレイクスルー

特定外来生物アライグマは全国的に分布が拡大しており、被害は増加傾向にある。また、対策が各地で講じられているものの、分布拡大抑制や低密度化に成功した事例は限られ、多くの地域で苦戦続きである。一方で、アライグマ対策の手法や研究などは蓄積されつつあり、現状は「指針は存在するものの、実行に移せていない」という状況である。今後、アライグマ対策を効果的に推進するためには、現在の停滞状況の構造や要因を明確にし、それを打破する一手を打つ必要がある。

そこで本企画では、まず「現状の共有」と「対策事例の共有」を通して現状を整理し、アライグマ防除が停滞する構造や要因、それを乗り越えるための課題を抽出する。そのうえで、パネルディスカッションを通じて現状打破の一手を議論する。

2025/12/7
14:00-17:00

申し込みはこちら



現状打破の一手
を考える

会場:ふれあい貸し会議室 秋葉原No51 オンライン:Google meet

- 14:00～14:05 趣旨説明 : 渡邊英之 野生動物保護管理事務所
- 14:05～14:20 現在のアライグマ対策の概要 : 渡邊英之 野生動物保護管理事務所
- 14:20～14:40 現状の課題の整理 : 吉岡憲成 KANSOテクノス
- 14:50～15:10 大阪府におけるアライグマ対策事例 : 幸田良介氏 大阪府立環境農林水産総合研究所
- 15:10～15:30 千葉県の市町村におけるアライグマ対策事例 : 浅田正彦氏 合同会社AMAC
- 15:30～15:50 東京都におけるアライグマ対策事例 : 鷲田茜氏 東京都環境局
- 15:55～16:55 パネルディスカッション: 全員
- 16:55～17:00 閉会



主催:「野生生物と社会」学会 青年部会企画
実行委員:渡邊英之・吉岡憲成・本橋篤・古賀達也

チラシ作成:古荘寿奈・本橋篤